

## 自己肯定感と意欲を高める登校支援について

### 不登校児童の状況

対象児童は小学校5年生で、小学校3年生のゴールデンウィーク明けから欠席が増えた。遅刻して登校すると教室に行くことを渋るようになった。当該児童は、「勉強についていけない。習い事が疲れる。」と呟いている。

### 具体的な取組

#### ○校内別室の活用

専科棟に設置し、他児童と会うことなく登校・活動できるようにした。

様々な活動ができるような空間を確保し、個別・集団で活動した。



#### ○個々の児童への対応

動機付けのための「がんばりシール表」を掲示し、活動意欲を高めることができるようにした。校内別室指導支援員を複数体制にし、個別の活動や在籍学級での学習にも付添いができるようにした。



#### ○小集団の活動の工夫

特別支援教室の担当教員と連携し、ソーシャルスキルトレーニング等を週1回程度実施できるようにした。

「子ども・若者育成支援センター」と連携し、ボードゲーム等を通じて複数人で自然に関わり合うことのできる体験活動を月1回程度実施できるようにした。

#### ○在籍学級や様々な教員との関わり

給食は、できるだけ当該児童が在籍学級に取りに行くようにした。

校内別室の登校状況について、校内別室に登校した児童が養護教諭に報告するようにした。

ノートを作成し、校内別室指導支援員同士や在籍学級担任との情報共有をできるようにした。

### 成果

当該児童が小学校4年生のときは、攻撃性が強く他の児童との関わりが難しい場面が多く見られたが、徐々に攻撃性は薄れ、校内別室を利用している他の児童と良好な関わりをもてるようになった。

その結果、小学校5年生では、出席日数を増やすことができた。

### 課題

今後在籍学級への登校につなげていくか。どのようにして活動意欲をさらに高めていくか。当該児童の実態に合わせて支援を見直していく。